

流域の皆様へ！

ニホンウナギを守る取組を実施しています

ニホンウナギの生活史

近年、ニホンウナギの稚魚(シラスウナギ)が捕れなくなってきました。ニホンウナギが減少した主な要因としては、生息環境の悪化等が挙げられており、早急にニホンウナギの資源を守るための対策が必要になりました。

ニホンウナギは、日本人には古くから馴染みのある魚ですが、実は謎の多い魚です。赤道近くのマリアナ海域で生まれたニホンウナギの稚魚は、黒潮に乗ってフィリピン沖から台湾や沖縄の沿岸を通過して日本沿岸にやってきます。河口付近で川の水に体を慣らし、10cmくらいになると川を遡って、内陸の水田地域から上流の池や沼まで棲み処を拡大し、5~10年くらいで親になってから川を下って、日本から2,000km以上も離れた産卵場へと向かいます。

しかし、未だその生態はわかっていないことが多く、卵から人の手で育てる養殖の技術開発も実験レベルでは成功しているものの、実用化はまだまだ先になりそうです。



ニホンウナギの保全に立ち上がった内水面漁協

このような中、ニホンウナギの生息環境改善に向けた国内の取組として、川や湖に石倉カゴ増殖礁(ポリエステル製のカゴ網に石を詰めたもの)を設置する事業を行っています。その目的は、隠れ処や餌場を確保してニホンウナギを保全するとともに、その効果を検証することにあります。

平成28年度は地図に示した11府県の内水面漁協が石倉カゴ増殖礁設置事業を行っています。



ニホンウナギを守る取組へのご協力をお願い

漁協では、**石倉カゴ増殖礁を設置した場所を禁漁にするなどの対策**を行っています。釣りをされる方や流域にお住まいの皆様には、**趣旨をご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。**



石倉カゴ増殖礁を棲み処にしたニホンウナギ



石倉カゴ増殖礁(下部に効果検証調査のための生け簾網が取り付けられている)



石倉カゴ増殖礁の設置作業(武儀川では28年9月に実施)

美山漁業協同組合

岐阜県漁業協同組合連合会

全国内水面漁業協同組合連合会